



撮影地
西伊豆・
大瀬崎湾内

ゆりがごは父の口の中

世の中は変化して、女性と男性の仕事の区別がどんどんなくなっていく。亭主が子育てをする光景も、日本はともかく欧米では珍しくない。ところが魚の世界では、とつくの昔から雄の献身的な子育てが知られている。

伊豆の海では、7月中旬から1か月ほどの間、クロ



ホシイシモチの産卵が観察される。寄り添う「つがい」は縄張りをつくり、雄が口を開閉して卵をくわえる準備を始める。産卵開始の合図となる。

雄が雌の産卵口をつついて産卵を促すと、雄と雌は平行に並んで回り始める。やがて、お互いの腹部を密着させて、放

卵と放精が同時に行われる。雌が産んだ卵の塊は、雄が素早く口にくわえて「口内保育」する。

卵塊をほおばった雄は、アゴが外れたような異様な面相のまま1週間余り絶食して、卵は安全に保護されながら発育する。

孵化が始まると、エラで呼吸するたびに雄の口から4ミほどの稚魚が吐き出される。稚魚は約1ヶ月に成長するまで浮遊生活をするが、生き延びるには厳しい試練が待ち構えている。(水中写真家・伊藤勝敏)